

NPO法人「田村明記念・まちづくり研究会」設立趣意書

1963年飛鳥田一雄横浜市長は「だれでも住みたくなる都市づくり」を打ち出し、戦災と長引いた連合軍の接収により荒廃した都心部、無秩序な開発が進む郊外部を再生させようという方針を提案しました。1965年、権限も財政力もない横浜でしたが、知恵と創造力、主体性を結集して六大事業を発表し、総合的な都市づくりを出発させたのです。みなとみらい21、港北ニュータウンなど横浜の都市の骨格はここから形成されてきました。

その過程では、都市プランナー・田村明・市役所・国の省庁・市民・コンサルタント・企業が激論を闘わせる一方で協力もし、新しい仕組みと価値を創造していきました。そこからは、群像が織り成す物語が読み取れます。またそこには、まちづくりを学びなおす有用な素材があふれていますが、まだそれらは、十分に整理・検証、そして、客観的な視点に立った研究がなされているとは思われません。そこで私たちは、これからのまちづくりに役立てることを目指して、2013年12月に「まちづくり横浜の総合化と田村明一研究会」を発足させました。

これまで「田村の家族たち」「都心部の高速道路地下化に至る組織決定の構造と田村明」「横浜の用途別容積制度の誕生、緩和、廃止、そして今」「浅田孝と田村明」をテーマに資料発掘と関係者への聴き取りを行い、成果の発表と議論を重ねました。また、田村明が残した国内外の都市のスライド30万枚のデータ化にも着手しました。彼の思想には、横浜のまちづくりから「市民のまちづくり」「市民の政府」への展開がありましたが、このスライドには、それをひもとく手がかりがあるのではないかと期待しており、研究してゆきたいと考えています。

これまでの活動を通じて見えてきたのは、まちづくりを進める多くの人たちのダイナミックな動きです。紙に記録される計画の向こうに、多様な価値観のぶつかり合いと最適な解を求めて苦闘する人々の情景が浮かびます。逆風や無風のなかで、共感されるビジョンを創りあげ、状況を動かし、事業を進めていくまちづくりの手法を、現在そして将来の市民とプランナーにバトンリレーしたいと考えています。

加えて、田村明夫人眞生子様からの篤志を、同学の志の方々につなぐお手伝いをさせていただきます。田村明・眞生子様からの応援ファンドを運用して、研究に加わる方々を支援いたします。

そこで、本研究会はこれまでの活動を継続し拡大していくためにNPO法人として再出発し、下記のテーマで、事業を実施しようと考えています。

1. 研究活動のテーマ

- (1) **地域の視点論** : 主体的・総合的・市民的な地域のまちづくりの視点がどのようにして生まれたのか。そして、どのようにして「市民の政府」という考え方まで発展していったのか。
- (2) **まちづくり組織論** : 地域が、主体的で長期的なビジョンを持ってまちづくりを進めていく組織(プランナー集団)はどのようにして生まれ、発展し、変化していくのか。
- (3) **総合化戦略論** : プロジェクト・コントロール・アーバンデザインという3要素がどのように総合化されたのか。共感され、生成成長していくビジョンの必要条件は何か。
- (4) **市民のまちづくり論** : 現在と将来の市民双方に評価される、市民によるまちづくりの実践は、どのような手法で実現できるのか。

2. 活動と事業の構成

- (1) **研究** : まちづくり資料の発掘と関係者からの聴き取りを中心とする研究会
- (2) **情報発信** : 研究会の公開、ホームページ運営、関連資料地図・スライド等の公開
- (3) **交流** : 市民参加のフィールドワークや、他のまちづくり関連団体との協働、研究交流
- (4) **ファンド運用** : 新規研究事業の実施、外部の研究活動への支援



「田村明を偲ぶ会」資料(森日出夫写真・町口忠デザイン)から

このNPO法人の設立にご賛同をいただき、多くの方々が活動に参加されることを希望しております。

2014年11月 NPO法人準備人: 遠藤 博、五島哲男、関根龍太郎、田口俊夫、田村千尋、寺田芳朗